

平成22年

新春座談会

魅力と活力あふれるまちづくり

さまざまな分野でまちづくりに取り組んでおられる皆さんにご参加いただき、魅力と活力あふれるまちづくりについて西田市長と意見交換をしていただきました。

Ⅱ 自己紹介 Ⅱ

丸山 社会福祉協議会（以下「社協」という。）の会長をしています。社協は市と同様に平成17年に合併し

市長 本日は、新春座談会にご出席いただき誠にありがとうございます。テーマは「魅力と活力あふれるまちづくり」です。皆さんの日頃の活動やまちづくりへの思いなどについてお話を聞かせてください。早速ですが、活動の紹介を含めた自己紹介をお願いします。

＝ 出席者（敬称略・50音順）＝

- ・岸本 泰子
 揖保町在住 市連合婦人会会長
- ・都倉 良太
 御津町在住 市連合自治会副会長
- ・西本 照也
 新宮町在住 櫛の会代表
- ・浜田多代子
 揖保川町在住 わくわく市民劇場脚本家
- ・丸山 勇
 誉田町在住 市社会福祉協議会会長

＝ コーディネーター ＝

- ・西田 正則 たつの市長

ました。1市3町それぞれが地域の実態に沿った取組や事業を実施していた訳です。調和とバランスに時間をかけ地域福祉を低下させることのないよう着実に努めてきました。しかもお互いが理解を深めることが大切です。本部支部の連携を密にし一致団結して福祉事業に取り組んでまいりました。また、個人的な活動として、エコプロジェクト事業でビオトープ等をつくり、土ガエルやホタル等が住める昔ながらの環境づくりにも取り組んでいます。

西本 「櫛の会」で代表をしています。退職後、兵庫県いなみ野学園で地域活動指導者養成講座のお世話をさせていた中で、里山の危機を痛感しました。また、子ども達が様々な事件を引き起こす問題の根源は、幼児期以来の体験不足にあると考えるようになりました。自分自身が何かできないかと考えていたときに「まちづくり塾」の募集を知り、知り合いを誘って6人で参加することになりました。「木

と遊んで「葉」しもう」ということで、「櫛の会」と名付けました。1年間、里山の現状を調べたり、手入れの仕方を研究したり、子ども達にいろいろな体験をさせたりした後、2年目から本格的に活動しています。

都倉 連合自治会の副会長、御津地区の会長をしています。御津には観光地が多くあり、これらを活かしたイベントもたくさんあります。梅まつり、菜の花まつり、海まつり、室乃津祭など、イベントをてこにして、地域の皆さんと連帯感、一体感を醸成させながら地域の活性化を図っています。その中で気がかりなのが新舞子の観光客が減少傾向にあるということ。この問題をなんとか解決したいと思っています。歴史的な室津への導線が確立すれば、今まで以上に市内外へのPRが可能だと考えています。

岸本 昨年4月から連合婦人会長をしています。最近、婦人会への加入率が減少している地域があり、婦人会を取り巻く環境は非常



西田 正則 たつの市長

に厳しいものがありますが、皆さんの協力で支えられて頑張らせていただいています。婦人会は教養と地位を高め、ひいては地域に貢献できる団体を合言葉に全力投球で活動しています。

浜田 2年に一回アクアホールで開催している「わくわく市民劇場」のシナリオを担当しております。以前から西播磨に伝わる話を題材に民話を書いておりました。市民劇場にかかわるきっかけを申し上げます。姫路文学館の播磨文芸祭で、揖保川の昔話を題材に舞台をしていましたところ、見こられた人から、ふる里に伝わる話を使った市民劇場を作ろうとのお誘いを受け、シナリオを手がけさせ



西本 照也さん

ていただくことになりました。公演後の充実感と満足感、会場、演者、スタッフとの一体感が忘れられず、毎回、楽しくシナリオを書いております。

II 活動内容 II

市長 皆さんの発言には、行動と実践が伴っています。と同時に、それぞれのお立場でご活躍いただいていることに敬意と感謝を申し上げます。次第です。

それでは、次に活動や取組について、具体的なお話を聞かせていただけますか。

丸山 社協は市の一つの部署で、社会福祉法人という法人格を持つ団体であることを知らない方もいらっしゃる



岸本 泰子さん

やいます。また、社協の自主事業に充てる財源の一つに善意銀行があります。笑い話ではありますが、一般の金融機関と勘違いされる方もおられます。これでは、市民から大切な浄財をいただける訳がありません。

社協や善意銀行を知ってもらう一つとして、啓発と、広く地域住民に福祉的効果の還元を図るために「善意の種まき事業」と題した事業を開始しました。これは地域住民自らの智慧と工夫により地域のために財源の一部を活用するものです。また、新しい預託の創設にも努め善意の小箱(募金箱)を作成しました。さらに歳末事業として福祉カレンダーを作成したりと、職員が知恵を出し合いながら少し

でも社協を知っていたかどうかと全員一丸となって取り組んでいます。

市長 良い取組や素晴らしい事業をしても、PRが下手だと波及効果が生まれませんし、理解も深まりません。おっしゃるとおりで、知ってもらうことが一番大切です。

西本 櫛の会では、里山での活動として県の住民参加型里山ミニ公園づくり事業にも手を挙げました。子どもも自然体験プログラムを更に発展させ、木の枝を使っているブランコ体験を始め、凧づくり、草木染め、昔の土器作りなどにも挑戦しました。月に一回「櫛の会通信」を発行して会員に配っています。また、昨年は、小学1年生の生活科や3年生の総合的学習のお手伝いを始めました。市からの委託事業で、親子を募って間伐材でプランターの木枠を50個製作しました。櫛の会も4年が経過し、知名度も少しずつですが、上がってきたのではないかと思っています。

丸山 西本さんが取り組んでいる自然体験型の事業には、賛同しますね。

近年、沼ガエルは増えていますが、土ガエルやトノサマガエルは減っています。魚も種類が変わってきています。高駄地区(菅田町)では、ビオトープに石積みをして魚の住みやすい環境にしたところ、めだかや銀ぶな、土ガエルが生息するようになりました。環境試験的な位置づけにもなっていますが、それだけで守っているものではありません。地域の大人が子ども達に伝え、子ども達が体験を通して考える力を習得する。そのためには、大人が積極的に参加する。こうした地域社会の循環を作っていく tara と思っています。

岸本 昨年の佐用、宍粟の大災害支援のため、日赤奉仕団として炊き出しに行きました。日頃の防災訓練の結果か、実に手際よく炊き出しができ、他地区からも羨望の的となり、とても自信になりました。市民まつりでは、各地域から婦人会員総勢170名

が参加し、緑色と黄色の着物を着て、たつの小唄を踊りました。「スケールが大きくて良かったですよ」と声をかけていただき、大変励みになりました。

また、文化祭での手作り作品展では、バラエティーに富んだ作品が各地域から数多く出品され、女性の器用さや創造性をアピールするのに絶好の機会となりました。

都倉 婦人会は出て行く機会が多く、子育てや生活に支障があるとよく聞きますが、私の地域では、何か行事をするときには、女性部の皆さんによく協力していただいています。ささいなことでもいいから、自分ができることをしてくださいとお願ひしています。

浜田 私がこれまでに手掛けた市民劇場は4回です。昨年は、揖保川の高瀬船をテーマに「船頭日記」を演じました。出演者等は全て公募で、オーディションで決めました。市内在住や在勤の方、幼稚園児から66歳

までの方が来られ、出演される方には、皆必ずセリフを付けます。自信のない子ども達もいますが、練習していくうちに、目が輝き、いきいきと変わっていくのがわかります。

また、市民劇場は1、000人余りの方に観ていただきます。観てくださった人、関わってくださった人は、必ず「次あるんか」と声をかけてくださいます。これが私自身の励みとなり、また、皆さんの期待に応えようと私の頑張りにも繋がっているように思っています。

都倉 現在、営農にも取り組んでいます。地域の土地は地域で守り、農産物の生産は絶やさないとという使命感をもつて頑張っています。子ども達にも農業体験の必要性があると常々考えていましたので、御津小学校児童に昔ながらの農業体験をさせています。お年寄りの方も参加して下さって昔の風習も学ぶことができそうです。地域の中のささいなことから子どもたちが勉強することも大切だと考えてい

ます。

浜田 市民劇場では、地域に根ざした題材を選んで脚本を作っています。稽古を通して皆でいろいろ昔話をするので地域の文化が掘り起こされ、子ども達が語り部となり、故郷の文化を伝えていけたらと思っています。

市長 そうですね、地域のことでは地域から学ぶ。そして、体験を通じた知恵は生きる力となります。皆さんの取組は非常に参考になりました。

Ⅱ 問題点・課題 Ⅱ

市長 活動を続けていくと問題点が発生してくるもの

ですが、皆さんの活動での問題点や課題を教えてください。

丸山 社協のボランティアセンターには、現在ボランティアグループが128あり、延べ1、900人が登録されています。これらマンプワーを束ねるのが専任職員であるボランティアコーディネーターです。合併前は、各社会福祉協議会に一人ずつ配置が認められ付いていた補助金が、合併後の今後は経過措置を経て一名分の人件費補助となります。単純に、三人減らせばいいという訳にもいきません。きめ細やかな地域福祉の推進にはマイナスです。そこで、先ほども申しましたが、社協の意義や役割を

しっかりと市民に知ってもらうことで、支援や協力をいただくことになると思っています。取り組んでいます。

都倉 御津は海岸線に接し、実に風光明媚で、自然と歴史の宝庫です。東から成山新田、新舞子、綾部山、自然観察公園、室津漁港、賀茂神社、そして今年、「道の駅みつ」が竣工します。このラインによって様々な相乗効果をもたらすものと期待しています。そして、徹底した議論の上で、地域の皆さんが色んなことに主体的に参加してもらって地域が発展すればいいと思っています。

自治会はいくまで側面的な支援で良いのかわかりません。新しくできる道



丸山 勇さん



都倉 良太さん



浜田 多代子さん

の駅を核としてまちづくり
にどう発展させていけるか
がこれからの御津地域の、
さらにはたつの市の課題だ
と思っっています。

岸本 女性の意見も反映さ
せていただいていると思っ
ますが、オープン後の来場
者の感想などを参考にされ
た運営をお願いしたいです
ね。

西本 様の会は、補助金を
いただいで活動しています



が、将来資金面でも自立す
ることを考えて参加費とし
て300円もらっています。

最近では、公的な仕事の受
託などで自己資金の確保に
取り組んでいます。また、
かしの木の炭焼きをして、
その炭を平福の道の駅で試
験的に販売してもらってい
ます。

会員を増やすことが非常
に難しく、特に子ども達の
場合は、両親の理解がない
と来てもらえません。指導
する仲間もなかなか増えま

せん。

岸本 時代の流れもあり、
働くことを優先に考え、婦
人会活動を避けようとする
傾向があります。会員でも
時間的な制約が組織の強化
を阻む原因の一つとなっ
ています。このため、家庭で
自由な立場にある60歳を超
えた人がだんだん多くなり、
高齢化が進んでいます。意
識改革も必要です。

「あのね、婦人会よりも
自治会の役員さんの方は、
もっと大変なんやで。私ら
も、負けられへんで」と笑
顔で励ますと、「そうやな
あ」と納得の表情をしてく
れたこともあります。人は、
「役に立っている」と実感
した時に喜びを覚えるもの
です。いろいろな活動の中
で喜びを体験し、実証でき
る場面を数多く作ることに
必要だと思っっています。

浜田 以前の「ゆうやけこ
やけ」でさいれん坊主に出
演していただいた方から、
地元でもこの話を知らない
人がいると聞いたことがあ
ります。これを機会にと、
収録した映像を地域に回さ

れたそうです。私自身地域
の話が受け継がれる思いで、
嬉しくなりました。

昔は、お年寄りの方が話
をしてくれました。最近では、
核家族のため、そんな機会
がありません。皆が語り部
となり、たつののいい話を
ずっと伝えてもらいたいと
思っっています。

Ⅱ 今後の活動 Ⅱ

市長 それでは最後に、今
後の活動や取組について何
でも結構ですからお話しだ
さい。

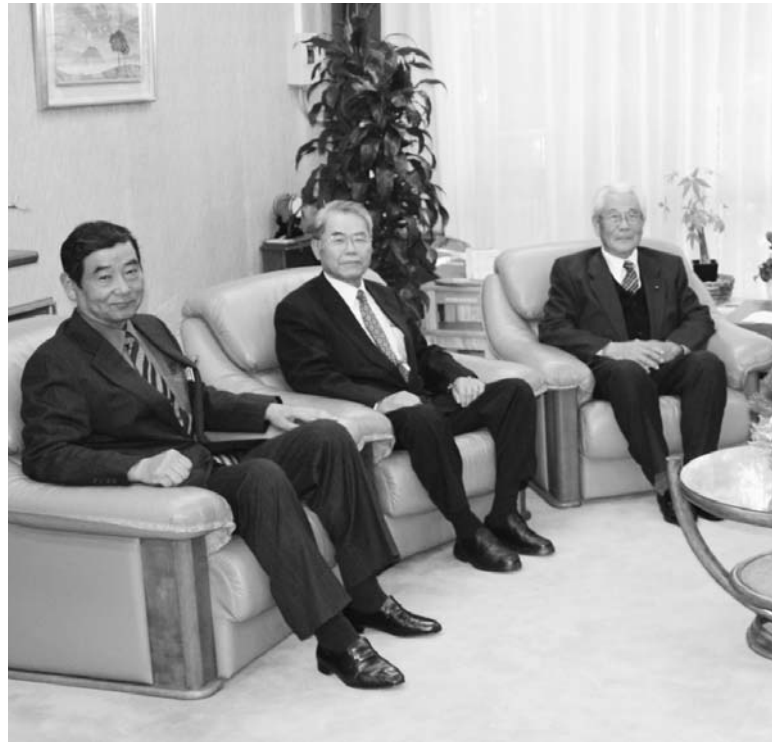
丸山 県や市の補助金は減
額されていますが、補助金
が減っても福祉の仕事が減
らすわけにもいきません。
何より一番大事なことは、
人が人を支え合う助けあい、
そして安心して暮らせる福
祉のまちづくりを住民の皆
さんと共に進めていくこと
です。

兵庫県西・北部豪雨災害
支援の際、社協として市民
ボランティアを募集しまし
た。トータルで約250人
余りを派遣させていただきました。
いざという時の助

け合いの体制づくり、それ
は日常の福祉のまちづくり
活動、社協活動の中で育ん
でいくことが大切だと感じ
ています。

都倉 地域活動には財源が
必要な場合もありますが、
地域の自立は何も大きなこ
とから始める必要はありま
せん。小さなことでも、で
きることから始めることが
大切です。しかし、それを
一つでは弱いから連結させ
るとなると、人それぞれの
やり方もありますし、難し
くなる面もありますが、そ
の連携ができれば、本日の
テーマでもある、魅力と活
力あるまちになるのではな
いでしょうか。結局のここ
ろ、ひとつづくりが一番大切
だということを改めて痛感
しています。

岸本 これからの社会は、
「地域のことは地域で」と
いった方向に進むことが予
想されます。連合婦人会と
しても、女性の目線で地域
の方と緊密な連携のもとに
活動を展開したいと思っ
ています。
「地元のことでは地元で」「女



性こそ、地域づくりの母である。」との気概で頑張りたいと思います。

課題も多いですが、先輩方の経験から学び、色々な立場の方のご指導、ご支援を得ながら、「地域の発展に寄与する婦人会」をモットーに、「喜びを共有できる活動」を夢に、粘り強く取り組んでいきたいですね。

浜田 市民劇場はだんだん広がりを見せ皆さんに認められるようになり、オーデ

イションに来る人も多くなっています。市内4地域の昔話をしてしまったので「もうこれで終わりですか」という話がよくあります。見てくださる人も続けてほしいという意見の方が多くいらつしやいます。舞台でやったものは、言葉で聞くよりも昔話や故郷の話として残っています。これからも続けていきたいです。

西本 子ども達の体験学習

は、全てお膳立てされたものではなく、子ども達自身で考えたことを大人が援助するようなやり方で進めていきたいですね。

新宮の越部地区に「緑の少年団」という組織があったようですが、最近はその活動を停止しているようです。御津には山の整備などを行う子どもの団体があるようです。これらが有機的な連携をしてお互いに活発化できればいいなあと思っています。

高齢者のみなさんは豊富な知恵や技術を持っておられます。それらを伝える活動に、生きがいを持って参加してくださる仲間を増やしていきたいです。自分自身もそのお陰で生きがいを持って生活していますし、これからもますます元気で頑張りたいと思っています。

Ⅱ ま と め Ⅱ

市長 今日、皆さんの話を伺いし、感じたことをまとめます。

1 点目は、組織を維持、拡大することの難しさを改

めて感じました。その裏付けとして財源も必要ですが、それをどのように配分する等いろいろ考えねばならないことを痛感しました。この点に工夫が必要であり、今後、検討していきたいと思えます。

2 点目は、皆さんは地域リーダーとして、それぞれの地域で頑張っていたいただいいますが、人の確保やボランティアの確保に苦慮されていることが良く分かりました。

最近では、「勝手にやっている」「やって当たり前」など、感謝の気持ちが無くなってきたように思います。物事の本質を知らないで、「人は人、自分は自分」といった考え方が増えているように感じています。

即、効果が現れる訳ではありませんが、地道な活動の積み重ねや活動のPRによって地域に浸透していく、いわゆる継続と反復の取組が大切ではないでしょうか。

3 点目は、子ども達に体験させるとき、言い方が少し乱暴かも知れませんが、出来るだけ親切にしておくことが勉強になるのです。

何もなければ感動が生まれる。成功すれば感動が生まれる。つまり、体験させることが目的ではなく、考えさせる、工夫させる、そして実行する。更に反省し見直していく、この過程が目的なのですね。

市内の龍野高校や龍野北高校では、高校生が先生となって小学生に理科実験の授業を行っています。高校の校長先生から聞いた話ですが、卒業式の日には生徒から「教えることの難しさを、小学生に教えることで初めて分った。先生の苦労が初めて分かりました」と言ったそうです。まさに体験を通じた成長と言えるのではないのでしょうか。

本日は、いろいろとお話を聞かせていただき、私たちの地域を活力と魅力あるまちにしたい、次代を担う子ども達を地域で育てようという強い思いが伝わってきて大変心強く感じました。長時間にわたり、貴重なご意見・ご提言を賜り、ありがとうございます。